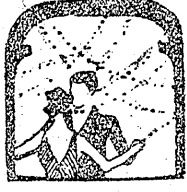


常盤宮日新聞

定価 一冊五銭 一月一元五角
廣告料 五銭 十二字 一行 全五拾銭
日曜 祭日の日 休刊
発行所 常盤宮日新聞社
印刷所 常盤宮日新聞社



盆踊考

【八】 生

朱雀天皇御即位以後、藤原忠平の攝政となるや藤原家必ず攝政關白の位を寵受し百二十年間の政治は藤原氏の意のままに行はれたのであつた。

佛敎として此の好機を見のがすべくも無く、藤原氏の保護、翼賛の陰に身を沈め布教勢力の伸張に心を砕き新興佛敎が擡頭するの反面に即位陰陽道は急轉化に其勢力衰微の軌道を辿るが如き運命をよぎなくされたのであつた。

而して、當時僧侶達の佛敎布教腐心の結果として、之を全然ゆるがせにし得ぬ社會組織の重要な若者の勢力に頼り、彼等達をして其の目的遂行に利用せんとしたのであつて、方法として若者達の常に愛好して止まぬ歌垣を想起するに至つたことも當然である。それに宗教的口碑傳説を含み盆の十三日に踊らざりせば、むかし踊を始めし日連尊者の意にそむくと稱し、寺院前に於て若き男女が會合を勧め、歌垣の變稱即ち盆踊りに歡を

盡し

「お前百までわしや九十九まで共に白髪を生へるまで」
の如き七五調の單純なる歌詞を歌はしめ(註一)遠祖並びに御佛の追善供養に外ならぬとして、僧侶をして男女

【朝】味噌汁一葱 小井 大根おろし
【晝】玉子焼き一太根おろし
【晚】酢味噌一むしなす作り身 せん切りしそ ポークチャップ 付合せ一細いんげん ぱたいため

の仲の媒介の勞を取るが如き感を得だかすに至つたのである。而して近世織田時代の盆踊風俗を見るに
天正四年丙子夏の始より(略)市中商人の子ども等が夏の暑さを凌がため夕方より男女ども踊り出すれば僧山伏も武士も同じく踊り月夜には月の光に乘じ、暗夜には提灯松明点じつれて(略)始めは白布の湯衣を着

て踊りしが、後には衣裳も金銀の摺箔し綾羅を身に纏ひ、金襴を鉢巻と思ひ、華麗をあらそひ風流を盡し(略)信康君(徳川家康の長子)もしおどり子ども魚服を着しおどりも思召にかなはぬば忽ち射殺し云々(註二)

とあり、流行の魁とし相當の華美を盡し艶治を競ふた事のかぐひ知ることも出来るのであつて、織田信長は天女に扮し率先しておどりをなしたに對し、徳川家康之を禁じ
元和元年土井大炊歌利勝御便として江府より駿洲に至られるが(略)斯る所に今年又神おどりと云ふこと上方より起り、尊卑影しく動搖す、此事上聞に達しければ(略)おどる輩これあらば、搦捕つ

市原醫院

平町・四町 電話一四四番

て牢舎申付くべき旨彦坂九兵衛尉に仰付けられ、彦坂、足輕並與力の輩召連れ發向すべきに定まりければ其の日よりおどりも止みたりと聞ゆ(下略)(註二)

お盆提灯大賣出し

……一見涼風……
……湧くが如き優秀品……
特製 新型行燈
變り型は數百種御座います。何卒御一覽下さい。

平二丁目 フクダヤ

佛壇位牌佛具一式 是非！ 近江屋

二丁目 電話七一一

婦人科

醫學博士 五十嵐雄二
手術室 完備
平町・新川町一
五十嵐醫院
電話三六九番

是非！

御融通には御用命下さい
萬事便利な御相談に應じます
公債、債券 三井質店
質物一般 三井質店
平四 電六〇六番

丸ほん商店

平三丁目・電話三五九番

佛壇佛器具各種賣出し
舊盆！ 年に一度の……
佛の供養に何人様も御準備を！
佛壇、位牌、佛膳、佛枕、經机、高月、茶碗臺、木魚、木杵、經本、球數、過去帳、輪及臺、線香立、花立、常花、ローソク立、香爐、佛器具新盆の御家庭へ贈つて喜ばれる佛器具を御勧め致します

父大輔儀新盆に相當り候へ共時節柄提灯其他供物等一切御辭退申上度甚だ勝手乍悪しからず御願申上候
平古鍛冶町 矢吹大一郎

齒科口腔外科 レントゲン科

院長 東京齒科 原 精一
平町土橋通り 電話三一三番
原齒科醫院

寶の山を讃え

踊明かす古河礦

盆唄を懸賞募集して

舊三日間を踊り抜く

黒ダイヤ景氣の波に乗つてゐる古河炭礦は目下舊盆を控え夏枯期も他所に今年三日間華々しく踊り抜かうと過般來盆唄の懸賞募集をするなど全従業員が張込んでゐるが懸賞總數八四九の中入選者を左の如く決定それ〴〵賞金を授與した

山本市之助「堅坑三千尺下れば銀座、通ふ電車十字街」秋元伊太郎「三等」聞いてなつかしお國の訛、小館音頭にテラホラと桐原安太郎「吹げよ涼風手拭飛ばせ、音頭とる娘の顔みたい」荒壽「ビツク持つ手に調子を」とれば、踊ハヅムよ夜明まで」深瀬實「西は赤井嶽東は平、間の小館は炭の山」市井丑次郎

他には見られぬ

平商校舎の珍景

支へ棒頭張る腐朽ぶり

崩壊の危険憂慮さる

既報平町が千餘圓を投じて修繕工事を行つてゐた平商校舎は此程出来上つたが内部は勿論外部の要所〴〵には「支へ棒」をする等他に見られない校舎となり商友會の新築速進運動も成程と領せ

通話料納入

成績不良

近く整理斷行

既報平町の七月分市外通話料六百五十七口二千九百四十四圓四十八錢の納入期日は明

自治會館上棟

湯本町入山炭礦では工費二萬圓餘で自治會館建設のため平町堀江工業會社請負で昨十八日上棟式を舉行、竣工は十月になる豫定

新市外通話局

平郵便局の市外電話は去る十三

日から左記各局と通話を開始した

平：大垣間一五〇錢 名古屋間一二五錢 大阪八尾間一圓 茨城縣海老澤二五錢

神白墜道改修

降雨毎に岩石崩壊する魔のトン

移轉者が續出

淋れる鎌田部落

新國道の完成を控へ舊道路線附近の悲哀

明年四月までに完成の豫定で内務省竹田技手監督のもとに工事を進められてゐる平町と神谷村をつなぐ新國道開鑿は既報の如く目下進捗中であるが新國道完成の結果は現在の鎌田部落を中心とする鎌田部落は國道六號線から永久に抹殺され今後の生活維持に不安を感じることになつたので木橋維持と今後の繁榮策に就いて種々協議されて來たが

北日本庭球に

平商警中出場

既報明後二十一日から二日間仙臺東北學院主催の下に同學院中學部ABCの三コートに展開される第十三回北日本中等學校庭球選手權大會の判額を目ざし猛練習

深み行く秋に

悲鳴の夜店街

温度二十六度五分最低温は實に十五度七分前年同日より一度九分低く二三年前の冷害當時の寒さで浴衣一枚では風邪をひきそうな冷気だ、市内の賑かな夜店通りも近頃は散歩連がメッキリ減つたので早くも悲鳴を上げてゐる

中の平商は早くも今十九日平發午前八時二十分まで室原教諭引卒の下に出發したが前年の弱者平商果して今年も優勝するか？過般の縣下大會に敗れたとはいへ「今度こそは」の意氣込みで連日猛練習を行つただけに進境めざましきものあり一般ファンから期待されてゐる

尚警中は明二十日平發午前八時二十分まで柳澤教諭引卒の下に出發する由兩校のメンバーは左の如くして

△平商 (篠原孝次 山口眞美 佐藤幸男 松本繁忠) △警中 (篠原英任 鈴木康男 小林一男 根本透)

蔬菜栽培講演

勿來町農會主催の農事講演會を廿二日同町小學校に開くので神谷農試分場の矢ヶ崎技手が出席蔬菜栽培の講演を行ふ

これも講演 神谷農事試験場は本月卅一日午前九時から傳習會を開き綠肥栽培と施肥法及び優良農具選定に就いて郡山本場の天浪技手が講演する

研農會員視察

神谷農試分場の特別傳習會卒業生の研農會員二十餘名は來廿三日茨城縣下の農事視察に出發する

平職業紹介所報告

人々を求めの方 出前特 十八才迄 給五圓 卒 小商店員 十九才迄 給十

△難夫 二十才迄 給八圓 △トラック助手 廿才前後 給面談 尋卒 以上 △日立職工 十八才 高卒 △機械見習工 二十才 高卒

△店員 十八才 高卒 △日立機械工 十八才 高卒

△職を求めの方 △日立職工 十八才 高卒 △機械見習工 二十才 高卒

暑中御見舞申上ます

大阪より皆様の御壯健を御祈申ます

本部 大阪

天光軒 満月

小口金融開始御案内

最近小口金融ノ御申込が增加シテ参リマシタノデ此度其業務ヲ開始シ特別ニ便宜ヲ御計ヒ致シマス 取扱ノ大要ハ左ノ通りデス

一、金額 五十圓以上五百圓迄

一、期限 一ヶ月以内

一、償還方法 月賦拂、或ハ一時拂

一、申込資格 商工業者、俸給生活者

一、區域 平町及附近

一、條件 保証人二名、擔保付ハ條件簡易

其他詳細ハ何卒御問合セ下サイ

昭和十一年八月

株式 七十七銀行平支店

電話 二二一四番

磐城セメント會社特約店

良品廉賣に勝る商略なし

確實敏捷は生命なり

磐城平町五丁目 電話九九九

法律知識通曉を種に

一德會社惡の全貌

白日下に暴露さる

他にも怪犯罪伏在か

躍る惡の手觸

去月上旬平署で
檢舉以來取調べ
を續行してゐた
元平町十五丁目
一德合資會社平支店長白石
隆雄(五)に就いては約一ヶ
月餘に亘る昨十八日取調べ
一段落を告げたが同人は一
德合資會社創立以來平地方
から巧みに十餘前後の血の
出る様な中産階級の金を掛
金させた二萬餘圓を滅茶々
々に使ひ果たした外既報の
如く仙臺市方面からも同様
犯行を犯し今回も各地に支
店を設置して二十餘名の外
交員を縱横に使驅して支店
扱の六千圓を横領、茨城縣
湊町からも同様貧者の七千

餘圓を着服費消してゐた事
實が明らかとなつたため近
く業務上横領並に貯
蓄法違反で送局される
が
白石は元小學校長を歴任
退職後法律知識のあるの
を利用して巧妙にも法の
裏をくぐり細民階級の血
と汗の金を絞つて來たも
ので

取調べに際して果からずも
白石は現在までに次々と六
名の妻を代へてゐること判
明、裏面に何等か犯罪の新
事實が潜んで居る嫌疑が深
まつて來た爲平署では八方
内偵を進めてゐる

酌婦誘拐の一步前

時計詐欺から發覺

前科五犯の強者失敗

湯本町字日渡無職赤坂幸一
(三)は十七日夜九時頃内郷
村大字宮字蛭子料理店つた
や方に登樓同家酌婦木下き
い(八)の所持せる銀側懐中
時計を一寸借せと持ち出し
十八日午前七時頃湯本町字
寶海質素日野利春方へ十一
圓で入質費消したと發覺

平署で檢舉取調べた處同人
は窃盜詐欺前科五犯の強者
で去る十四日新瀉刑務所を
出獄した足で本部に入込み
前記酌婦木下きい子を誘拐
賣飛ばさんとしてその前に
時計の詐欺が發覺して逮捕
されたこと自白した

江名の花賭博

平署員の同情で 郷里の點呼參加

深夜産婆の寢室へ 忍び込む少年

未青年の 犯罪が多い

鐵屑下口 二人組男

吉田眼科醫院

平町人壽

平町人壽

平町人壽

平町人壽

平町人壽

平町人壽

町字南町料理業白土ちよ
(三)同町北町下駄商鈴木三
郎(七)外三名は十八日夜白
土方で花賭博開帳中を駐在
所員に踏み込まれ逮捕され

平署は十七日夜仙臺市東二
番町書家、梅田義夫(三)を
無錢飲食の嫌疑で檢舉取調
べた處十九日仙臺市で執行
される簡閱點呼に召集され
てゐること判明點呼の済む
まで取調べを猶豫し歸宅せ
んとしたところ今度は懷中
無一文で歸れないので署員
一同で三圓を出し合ひ旅費
を與へて十八日歸宅させた

また無届火入 箕輪
村字高野農高秋長次(七)は
去る六月二十七日無届で自
己所有林野に火入をしたこ
と發覺平署で檢舉した

北目青年修養 平町
北目青年團では区内居住退
職教員を中心に修養會を組
織毎月十日定期的に生活改
善の座談會を開く

平町白銀町菓子商泉屋方店
員双葉町廣野村大字下淺見
川新吾長男新妻芳雄(七)假
名は去る一月廿五日午前二

時頃同村理髮業矢内嘉平
(三)と共に謀して村内の産婆
渡邊とめ(三)居宅に侵入
枕元に立つて怪しからぬ振

平檢事局管内に於ける平、
植田、四倉、浪江、富岡各
警察署の今年一月から六月
迄送致件數は九百四十三
件に達してゐるが最も多
い犯罪は盜竊の一九八件、
を筆頭に詐欺一六九件、賭
博一三八件、傷害六八件、
私文書偽造行使二四件、立
で殺人強盜横領等は三、四
件宛で案外少なく此のう
ち老年者(七十才以上)の犯
罪が一九件、少年者十八未
満の犯罪が一三七件、ある

明日の予言
二十日
今晩も明日も南
東風晴後夕立模
様

今晩の部
後六〇〇 連續漫畫劇
「チユウ子のいたづら日
記」チユウ(座)
後六二五 趣味講座 史
蹟巡り「淡路島」魚澄惣五
郎
後七三〇 講演「ホメモ
に關する諸説」越智眞逸
郎
後八〇〇 涼味通信「海
から」神田千鶴子他(鎌倉
た

明日の部
七里ヶ濱中繼)
後八二五 小唄 堀小ふ
じ他
後八四〇 落語「廿四孝」
三笑亭可樂
後九〇〇 長唄連夜三題
「雨乞其角」岸屋勝五郎他
後九三〇 時報 ニュー
ス 明日の話題 氣象通
報 番組豫告

前六三〇 速成獨語講
登張信一郎
前七〇一 朝の修養寒
「山詩提唱」山崎大耕(京
都)
前七四一 中等學校復習
の時間「地理」鈴木倉次
前八一〇 小學生おさら
ひの時間「讀方」田中豊太
郎
前八四〇 婦人夏期講習
「實用習字」山崎光子
前一〇〇〇 講演「北米
合衆國に於ける同胞の現
況」阿部俊吉
後一〇〇五 俚語 宮下さ
な他(仙臺・秋田)
後一四〇 全國中等野球
甲子園球場中繼

後六〇〇 おとしばなし
「航空時代」音々亭桃太郎
後六二五 趣味講座 史
蹟巡り「藤戸の先陣」永山
卯三郎
後七三〇 講演「税制の
改革に就て」沙見三郎(京
一)
後七五〇 ヴァイオリン
獨奏 フユリーローラン
ト
後八一〇 ラヂオ小説
「鼠小僧次郎吉」坂東鏡之
助他
後九〇〇 長唄連夜三題
「連獅子」芳村伊四郎
後九二〇 涼風隨筆「苦
瓜和尚と木精」隨筆橋本
關雪 朗讀富田碎花

枕探し男

吉田眼科醫院

平町人壽

平町人壽

平町人壽

平町人壽

平町人壽

平町人壽

平町人壽

平町人壽

東京市豊島區坂本町アバ
ト止宿長谷川輝夫(三)は今
十九日平檢事局で家檢事
の取調べを受けてゐるが同
人はある七月二十五日平驛

前新開旅館に投宿翌日二十
八日三分の宿泊料四圓と
隣室に泊り合した東京市高
田町外交員後藤素廣氏の二
十圓在中の財布を窃取逃走
せんとした所を平署員に捕
へられたもので常習者らし
く見られてゐる

平町人壽
△新川町一六持九順徳氏八
女幸子さん

平町人壽

平町人壽

平町人壽



謎の瓦解の謎々

悟道軒圓玉(作) 尾至陽(書)

二〇一 怪談もどき

山口良澤は高木伊兵衛と彰義隊士井伊織の迷惑に悩まぬやうにとこゝに一場の怪談で言譯をする

良『今申しました通り怪我人は實は不思議でございませぬ、奇態なことがあるもので』

といつたが御用聞きの中藏はこれを聞いて

半『判然云へ、お前に療治をうけたその老人は何者だまたその住居はどこだ』

良『それが判りません、この邊から東に當つてゐるとは存じませんが實に不思議でございませぬ、老人の傷はだ、今も申す通り鐵砲傷、こゝにおいて考へました、その老人は人間ではありませぬ、年ふる狐でございませぬ、上野に棲んで居りましたが十五日の戦ひに流弾にあたり怪我をいたしましたについて手前を呼びよせたことと存じませぬ、住まひはこの菊屋橋より東に當つて居りました故まづ向島三圍稻荷であらうと存じます、上野からそれへ立退いたものでございませぬ』

半『オイ良澤、馬鹿なことはいふな普話を聞くために』

お前を呼んだわけではねえよ、隠すわけなほ怪しいサア十兩くれたその先をほつさりと言へ、それとも醫者といふは表向きお前は盗人か』



なければ痛い思ひをするが宜いか、エ、申し上げろい……』

良『これ、それを云つてはすまぬ、高木の旦那が御迷惑をなさる』
と云つた時に半藏が半『ヤイ良澤、十兩は高木といふものから貰つたな、その高木といふは何者だ』と問うた、その時良澤の女房おかねが

つてわしから話をするが宜いかの』
良『これ、それを云つてはすまぬ、高木の旦那が御迷惑をなさる』
と云つた時に半藏が半『ヤイ良澤、十兩は高木といふものから貰つたな、その高木といふは何者だ』と問うた、その時良澤の女房おかねが

良『それは怪しからぬ、わしは淨い体でございませぬ』
半『それならば言へさうなものだな、いはなければ体に物をいはせるが、良澤をしめろ』
と手先にいひ付けた、仁八に弁吉といふ者が箆尻を取つて良澤のうしろへまは

半『われは何んだ』
女『わしは良澤の案内でございませぬ』
半『案内といへば女房だな……』
女『ハイたしかに女房でございませぬ、良澤さんが十兩もらつたについては仔細がございませぬ、のうモシ良澤さん、この事をいはねばお前が苦しむだ、前に代

良『それは怪しからぬ、わしは淨い体でございませぬ』
半『それならば言へさうなものだな、いはなければ体に物をいはせるが、良澤をしめろ』
と手先にいひ付けた、仁八に弁吉といふ者が箆尻を取つて良澤のうしろへまは

半『われは何んだ』
女『わしは良澤の案内でございませぬ』
半『案内といへば女房だな……』
女『ハイたしかに女房でございませぬ、良澤さんが十兩もらつたについては仔細がございませぬ、のうモシ良澤さん、この事をいはねばお前が苦しむだ、前に代

花柳病科外科

木村外科醫院

番九〇三話電 際橋目丁六町平

御中元の御贈答に
商品券
御利用下さいませ
ふかや洋服店 平町203番

御中元御贈答品御案内

先づ最も重寶な
商品切手

入	入	入
入	入	入
入	入	入
入	入	入
入	入	入

タアル箱入 3本本 入
半布箱入 1打打 入
沓 下 1打打 入

ワイシャツ及び下着シャツ類
其他化粧品・石鹼・洋品類

實用向贈答品
店内に澤山陳列して御座います。是非御來店の程御待ち申して居ります。

ヤルツ

四〇四一電・平

胃腸性病性

内科 皮膚科
花柳病科 性病科
胃腸病科

専門

松村胃腸性病醫院

(番〇七一町南町平)

御日焼けの御顔を御手當に就て

海水浴の御日焼け、残暑の御日焼け等は、御顔を「美」を一層傷つけるもので御座いますから、其の際は必ずお手當が必要で御座います。私共の化粧院は御日焼けには御特別のオゾン理容法によるお手當を致しまして皆様が御満足のいく限りの御化粧に努めてをります。

海水浴の御日焼け、或は残暑の御日焼けの御手當には是非水野化粧院迄御立寄下さいませ。

昭和十一年八月

美容 平 野 前
結髮 水野化粧院
主 水野 冬子
電話 六七八番
自宅 平町四軒町水野商店
電話 五二五番